

港のたより

Letter of Port

Vol. 139

2022.8.18



(一社) 寒地港湾空港技術研究センター

COLD REGIONS AIR & SEA PORTS ENGINEERING RESEARCH CENTER



枝幸港 (写真提供: 稚内開発建設部)

Contents

行事報告

みなとの

ニュース

第10回定時総会の開催	2
室蘭港祝津絵鞆地区クルーズ船等受入岸壁の供用式典を開催	3
枝幸港本港地区屋根付き岸壁(1棟目)が完成	4
第65回(令和3年度)北海道開発技術研究発表会 受賞論文(港湾部門)の概要について	5
みなとオアシス Sea 級グルメ北海道大会 in 室蘭を開催しました	7
白老港にクルーズ船が2隻寄港!しました	8
2022年度 寒地土木研究所一般公開開催報告	9
会員の表彰等について	10

センター通信

令和4年度 第1回 常任委員会の開催について	13
令和4年度 助成対象事業について	13
令和3年度 助成事業報告	14

お知らせ

「ザ・シンポジウムみなと in 室蘭」の開催について	19
「令和5年度 自主調査研究テーマ募集」のご案内(予告)	19
一般財団法人寒地港湾空港技術研究センターの常勤役職員について	19

編集後記

20

行事報告

第10回定時総会の開催

令和4年6月15日(水)に一般社団法人寒地港湾空港技術研究センターの第10回定時総会を京王プラザホテル札幌において開催しました。今回の総会も新型コロナウイルス感染症に関する現下の状況を踏まえ、極力ご出席をお控え頂き、委任状または議決権行使書のご提出をお願いして開催し、会員311名(出席者13名、委任状271名、議決権の行使27名)のご出席のもと開催いたしました。会員の皆さまにご協力を賜りましたことにお礼申し上げます。

総会は佐伯会長の挨拶に続き、以下の議案審議及び報告を行いました。

○議案

第1号議案 令和3年度決算報告の件

第2号議案 役員の選任の件

以上、2議案については、原案通り承認されました。

○報告

報告事項1 令和3年度事業報告の件

報告事項2 令和3年度公益目的支出計画実施報告の件

報告事項3 令和4年度事業計画及び収支予算の件

役員の選出については、岡田恭一理事、桑島隆一理事、佐々木秀郎理事、白石悟理事、瀬尾英生理事が退任され、新たな理事に一般財団法人北海道建設技術センター理事長 小林敏克氏、一般財団法人港湾空港総合技術センター北海道支部長 中島靖氏、苫小牧港管理組合専任副管理者 平澤充成氏、北海道大学名誉教授 山下俊彦氏、北海道経済連合会専務理事 水野治氏が選任されました。また、片倉豊監事、山下俊彦監事が退任され、新たな監事に北海道港湾協会事務局長 三木満氏、北海道大学大学院教授 渡部靖憲氏が選任されました。

退任されました皆さまには、これまでセンターの運営に大変ご尽力いただき深く感謝申し上げます。今後、当たらない体制でスタートしましたので、これまで同様にご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



佐伯会長挨拶



総会全景

みなとのニュース

室蘭港祝津絵鞆地区クルーズ船等受入岸壁の供用式典を開催

室蘭市 港湾部 港湾政策課

令和4年5月15日(日)、クルーズ船「ぱしふいっくびいなす」を第1船に迎えて、室蘭市と北海道開発局室蘭開発建設部の共催により、祝津絵鞆地区クルーズ船等受入岸壁供用式典を開催しました。市内高校の吹奏楽部による華やかな演奏で始まった式典には、地元選出の国会議員のほか約70名の関係者が出席し、世界最大22万トン級のクルーズ船に対応可能な岸壁としては北海道・東北で唯一となる施設の供用開始を祝いました。

これまで室蘭港では、東日本最大の吊り橋「白鳥大橋」の桁下航路高(53.5m)を通過可能なクルーズ船については市街地に近い旅客船岸壁で受け入れてきましたが、通過できない大型クルーズ船は郊外のコンテナ取扱い岸壁への受け入れとなっており、寄港後に観光や景観を楽しむことについて十分とはいえない状況がありました。今般、その対岸で、かつては石炭を取り扱っていた岸壁の老朽化対策に併せて、既存ストックを活用した岸壁改良を行ったことにより、みなとオアシス「みたら室蘭」や臨海公園、市立室蘭水族館にも

近いロケーションで、かつ世界最大級までの大型クルーズ船を受け入れることが可能になりました。

室蘭市の観光の特色は、白鳥大橋が臨港部の工場夜景に彩を添えており、主塔の高さ百メートルの位置から室蘭港を一望できるインフラツーリズムや、日本遺産「炭鉄港」の歴史的な遺構など、地域のインフラや産業を観光に結びつけた取り組みのほか、天然の断崖が魅力の地球岬などの自然景観にも恵まれています。

また、車で1時間圏内には、アイヌ文化の発信拠点「民族共生象徴空間ウポポイ」や洞爺湖有珠山ジオパーク、縄文遺跡群、登別温泉もあり、こうした近郊の観光資源も活かしながら北海道の玄関口として、クルーズ振興に取り組んでいます。

なお、今回岸壁については暫定供用となりましたが、引き続き、クルーズ船着岸時に利用するバス・タクシー等の駐車場や、みなとオアシス「みたら室蘭」まで徒歩で快適にアクセスを可能とするための緑地の整備を予定しています。



供用式典の状況

枝幸港本港地区屋根付き岸壁(1 棟目)が完成

枝幸町 水産商工課

地方港湾枝幸港は、北海道の最北部宗谷管内の東南部に位置し、沿岸・沖合漁業の拠点基地として当町の発展と産業振興に大きな役割を果たしております。

当町の基幹産業のひとつである漁業につきましては、オホーツク海の豊かな水産資源を背景に、栽培・資源管理型漁業の推進により水揚量が伸長し、その経済効果は水産加工業や運送業等の様々な関連産業にわたっており、まさに当町の経済を支える重要な産業として確立されています。

特に、ほたて貝については、枝幸漁業協同組合の年間水揚量・水揚高ともに過半を占める一大魚種として確立している中で、平成 25 年 11 月に枝幸海域を含めた宗谷南部海域が「対 EU 輸出向けほたて貝生産海域」の指定を受けて以降、平成 26 年度に枝幸町内の 2 つの水産加工施設が「対 EU 輸出水産食品取扱施設」の認定を受け、平成 27 年 6 月より対 EU 輸出向けほたて貝の生産・出荷が開始されました。

枝幸町内の水産加工事業者においては、「米国向け輸出水産食品取扱認定施設」や「中国輸出向け輸出水産食品認定施設」の認定など、計 8 事業者が海外輸出向けの施設認定を取得しており、新たに 1 事業者が、令和 3 年度に国の「食品産業の輸出向け HACCP 等対応施設整備事業」を活用した米国向け輸出水産食品取扱施設の認定基準を満たした施設を整備し、現在、その認定を受けるべく手続を行っているところであります。

こうした中、平成 29 年 5 月 23 日付けで国土交通省港湾局長より、全国初となる北海道内 6 港湾連携による「農水産物輸出促進計画」の認定を受け、平成 29 年度より「屋根付き岸壁」の整備が進められました。

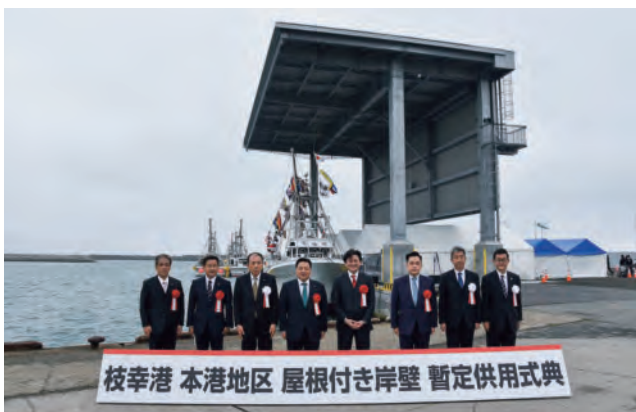
令和 4 年 3 月に待望の 1 棟目が完成しましたことから、令和 4 年 6 月 5 日(日)に、枝幸町と北海道開発局稚内開発建設部の共催により、「枝幸港本港地区屋根付き岸壁暫定供用式典」を開催し、北海道選出国会議員をはじめとした約 50 名のご臨席をいただき、盛会のうちに挙行することができました。

屋根付き岸壁は、令和 6 年度までに 5 棟の完成を予定しており、その規模は、延長は、154m(1 隻あたりの漁船バース長 30.8m×5 棟)、高さは、ホタテ採捕漁船のクレーンやアンテナの高さに合せた 12.5m とし、幅は、陸揚げ作業や 10 トン級の大型車両の円滑な通行を考慮した 8.95m であります。

この屋根付き岸壁の完成により、これまで、野天での陸揚げ作業であったために、直射日光の影響や鳥類の糞害などの異物混入による品質低下が懸念されておりましたが、これらの課題が解決され、令和 3 年 3 月に「地域団体商標」に登録された「枝幸ほたて」をはじめとした水産物の鮮度保持や品質向上により、更なる海外輸出促進が図られ、水産業者及び関連事業者の更なる経営向上が期待されます。



完成した屋根施設



供用式典の状況



施工箇所

第 65 回(令和 3 年度)北海道開発技術研究発表会 受賞論文(港湾部門)の概要について

北海道開発局 港湾空港部 港湾建設課

第 65 回(令和 3 年度)北海道開発技術研究発表会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、令和 2 年度に引き続き、オンラインセミナー形式の実施となりました。令和 4 年 2 月 14 日から 4 日間にわたり、Web 配信で開催されました。この中で、自由課題 6 カテゴリー 195 論文の発表が行われ、うち 22 件が港湾・空港・漁港部門の発表となりました。

これらの論文の中から、創造性、将来の発展性、テーマ性、研究努力及びプレゼンテーションなどの観点から北海道開発局長賞及び奨励賞、寒地土木研究所長賞、北海道開発協会会長賞及び奨励賞が選出されました。そのうち、港湾部門(港湾・漁港・空港事業関連)からは各賞あわせて 9 件が受賞されましたので、研究課題と発表者(所属は発表当時)をご紹介します。



北海道開発局長賞受賞の安村技官(現・小樽港)

【北海道開発局長賞 受賞論文】

研究課題 産業(産-13)

石狩湾新港東地区国際物流ターミナル整備における CIM の導入について

発表者

小樽開発建設部小樽港湾事務所	安村 駿汰
同上	大柏 賢仁
同上	廣部 俊夫

概要

令和 5 年に小規模工事を除く全ての公共工事において、CIM の活用が原則適用となることから、石狩湾新港国際物流ターミナル事業をモデルとして、CIM の効果的な活用方法や課題の整理と解決に向けた検討を行った。本報告では、石狩湾新港東地区国際物流ターミナルにおいて、測量・調査から基本・詳細・実施設計の各段階で作成した、構造物モデルや地形モデルの統合するモデルを作成するとともに、実際の石狩湾新港の工事における、仮設工や配船計画等の施工検討や施工管理に関する活用事例、CIM に関する課題や今後必要な取り組みについて報告を行った。

【寒地土木研究所長賞 受賞論文】

研究課題 管理(管-26)

凍害と海水摩耗を受けるコンクリート構造物の摩耗抑制に関する研究

発表者

(国研)寒地土木研究所寒冷沿岸域チーム	長谷 一矢
同上	平野 誠治

概要

氷海域にある港湾や漁港のコンクリート構造物は、凍害や塩害の他、海水による摩擦が加わった複合劣化により摩耗すると考えられる。この複合劣化環境における摩耗抑制に有効な方法を見出すため、凍害と海水摩耗を対象とした複合劣化試験法により、特徴の異なるモルタル材料の耐久性を試験し、得られた結果から考察を行った。その結果、複合劣化メカニズムとしては、凍害によりコンクリート表面が脆弱となり、そこに海水が接触することで摩耗が促進されること、摩耗抑制には材料の耐凍害性を高めることが有効であることを明らかにした。

【北海道開発協会会長賞 受賞論文】

研究課題 産業(産-15)

港湾・漁港工事の実態から算出した供用係数に見る今後の方策

発表者

港湾空港部港湾建設課	石田 大和
同上	海津 博行

概要

港湾・漁港工事では、作業船等の拘束期間に荒天時などで工事を実施しない日数を考慮するため、供用係数を用いた積算を行っている。しかし、工事によっては実態と合っていない場合があり、荒天リスク精算型等試行工事が開始され、実態の荒天に応じて金額の精算を行っている。本報告では、現場の実態の荒天日数から算出した供用係数を積算値と比較・分析し、今後の入札契約において必要な取組について考察する。

【北海道開発局長奨励賞 受賞論文】

研究課題 産業(産-19)

AI 画像認識技術等に着眼した整備効果算定手法の開発

—北海道漁業の競争力強化に向けた考察—

発表者

株式会社アルファ水工コンサルタンツ	松岡 央明
同上	鎌田 昌弘
農業水産部水産課	菅原 吉浩

研究課題 産業(産-21)

増毛港における屋根付き岸壁の整備効果について

発表者

留萌開発建設部留萌港湾事務所	川本 遼
同上	宮武 真人
増毛町建設課	尾崎 秀巳

研究課題 産業(産-17)

沖合域における漁場環境のデータ取得技術の研究

発表者

(国研)寒地土木研究所水産土木チーム	石澤 健志
同上	須藤 賢哉
同上	的野 博行

研究課題 環境(環-19)

寒冷海域漁港における高波浪からの魚類避難場機能の評価

発表者

(国研)寒地土木研究所水産土木チーム	梶原瑠美子
東海大学生物学部	大橋 正臣
(国研)寒地土木研究所水産土木チーム	的野 博行

【北海道開発協会会長奨励賞 受賞論文】

研究課題 防災(防-42)

北海道港湾における地震時の利用可否判断指標の設定手法

発表者

港湾空港部港湾建設課	亀尾 実愛
同上	水口 陽介
北日本港湾コンサルタント株式会社	奈良 俊介

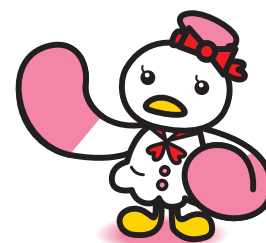
研究課題 管理(管-24)

室蘭港－11m 岸壁改良事業について

—既設構造物の改良時における課題と対応—

発表者

室蘭開発建設部室蘭港湾事務所	中村 友弥
同上	大西 弘芳
同上	西澤 隆宏



みなとオアシス Sea 級グルメ北海道大会 in 室蘭を開催しました

室蘭市 港湾部 港湾政策課

令和4年6月25日(土)、26日(日)に、絵鞆臨海公園で「みなとオアシス Sea 級グルメ北海道大会 in 室蘭」を開催しました。

「みなとオアシス室蘭」は、その登録を受けた平成24年以降、運営協議会を組織して構成施設で開催されるイベント情報の発信や応援、協力を主な活動としてきましたが、今年は室蘭港開港150年を記念する主体的な取り組みとして、本大会の開催に至りました。

本大会は、マスク着用や手指消毒、販売エリアと飲食エリアを分けるなどのコロナ感染対策を講じた上で、地元のほか北海道内7港、岩手県宮古港の協力で集結した13種類の Sea 級グルメを「食べる」ことに加えて、海で「遊ぶ」、海を「学ぶ」の3つをコンセプトに実施しました。

「食べる」の部分では、Sea 級グルメ大会初出場となる釧路港と留萌港のみなとオアシスのグルメのほか、地元からは室蘭漁業協同組合が考案した「ほたてチリバーガー」や登別室蘭青年会議所が地域で愛されてきたタコ焼きに似た外観の「帆立の玉焼き」を初出品するなどして、出店者も来場者もイベントを楽しみました。

「遊ぶ」としては、エンルムマリーナ室蘭のクルーザーボートやB&G海洋センターの協力でシーカヤック・ヨットの体験乗船、「学ぶ」としては、会場内の学習ブースで北海道大学室蘭臨海実験所が研究対象の身近な海藻と北海道立総合研究機構栽培水産試験場が栽培漁業等を紹介する展示を行ったほか、北海道開発局室蘭開発建設部の港湾業務艇による港内見学会も行い、近海の海藻や魚介類、室蘭港への理解を深めました。

また、ステージでは Sea 級グルメの PR や吹奏楽演奏、コーラス、和太鼓演奏、よさこい演舞など種々の

イベントが彩を添えたほか、会場に隣接する市立室蘭水族館では本大会にあわせてシーグラスを使ったフォトフレーム作成コーナーを開設するなどの連携もありました。

これらに加えて、前日までは悪天候でしたが当日は一転して奇跡的に晴天となり、室蘭市内ではコロナ後初となる大規模イベントであったことから、2日間で目標を大きく上回る約1万6千人が来場し、室蘭港が大いに賑わいました。

室蘭港は、噴火湾対岸の森町とを結ぶ定期航路が開設された明治5年の開港以来、石炭の積出港から鉄鋼コンビナートへと発展し、また、エネルギー分野では、石油関連企業の立地につき、近年では国内最大級の PKS 専焼バイオマス発電所も稼働するなど、国内におけるエネルギーの変遷にも対応しながら、地域の産業、経済を支え続けて、開港150年を迎えました。

これからも鉄鋼業を基幹産業に「ものづくりのマチ」として長年培ってきた技術や優秀な人材を活かして、鉄・エネルギーの生産やカーボンニュートラルに貢献する産業港湾としてはもとより、大型クルーズ船の受入や漁業協同組合などの海に関わる市内の機関・団体が力を出し合って行う記念事業を契機に、これからも協力して港の賑わい創出に取り組んでまいります。



オープニング



開会式



会場の様子

白老港にクルーズ船が2隻寄港！しました

白老町 産業経済課水産港湾室

6月2日(木)の早朝、白老港に、大型客船「ぱしふいっくびいなす」が5年ぶり2回目となる寄港、そして6月12日(日)の正午に「にっぽん丸」が初寄港しました。新型コロナウイルス対策の徹底の中ではありますが、両日とも天候に恵まれ、寄港における記念品贈呈や、白老町や苫小牧市の観光PRマップを配布し、お出迎えいたしました。



ぱしふいっくびいなす接岸(6月2日)



観光ブースおもてなし 1



にっぽん丸接岸



記念品贈呈(にっぽん丸)

また、岸壁上に観光案内ブースを出展し、本町の特産品やアイヌ伝統工芸品、北海道の人気土産品などの販売のほか、観光やふるさと納税のPRを行い乗客・乗員をおもてなし致しました。

出港時には、航海の安全を祈るアイヌ伝統儀式やムックリ演奏、古式舞踏などを披露し、来場いただいた一般の方も含め船出を見送りました。

2020年に開業したアイヌ文化復興拠点「民族共生象徴空間ウポポイ」と合わせて、更にアイヌ文化を知り、白老に再訪したいと思ってもらえるようアピールし、引き続き白老港へのクルーズ船誘致活動に注力していきます。



ぱしふいっくびいなす出港の見送り



観光ブースおもてなし 2



にっぽん丸 出港セレモニー(6月12日)

2022 年度 寒地土木研究所一般公開開催報告

国立研究開発法人 寒地土木研究所 寒冷沿岸域チーム
水産土木チーム

2022 年度寒地土木研究所の一般公開を7月8日(金)・9日(土)の2日間にわたり開催しました。昨年、一昨年と新型コロナウイルスにより2年連続の中止となっていたため、3年ぶりの開催となりました。現在も新型コロナウイルス感染症が終息していないため、人数制限を設け、アルコールスプレーを随所へ設置するなどの感染症対策を行っての開催となりましたが、両日とも天候に恵まれ2日間で合計852人のお客様にご来場頂きました。各研究チーム・研究ユニットが工夫を凝らした研究内容の紹介により、子供たちだけでなく大人の皆様にも、それぞれのコーナーで実験・体験・発見を楽しんで頂きました。

寒冷沿岸域チームでは「波と流水を知ろう!」をテーマに大型平面水槽の造波装置で起こした波を模型の防波堤に作用させる実験、流水模型の組み立て体験などを行いました。大型平面水槽では防波堤が波浪から港を守る様子を皆様真剣に見学しており、この体験を通して港と波への理解を深めて頂きました。流水模型の組み立て体験でも多くの親子連れの方々が来られ、親子で一生懸命に模型を作っていました。

水産土木チームでは「海の中の見えない世界を知ろ



う」と題して、エゾメバルやナマコ、オオヨツハモガニなど、水産土木チームが研究対象としてきた北海道沿岸域に生息する海洋生物を集めた見学用水槽を設けました。普段、生きた海洋生物を直接見ることが少ない子供達にとって貴重な体験であり大人気でした。さらに、3D プリンターによる ROV 用のスラスターガード製作の実演や ROV 実機の展示、ブース内に設置したモニターではオオヨツハモガニによるナマコ捕食や、ROV 及び潜水土士による人工魚礁・漁港内の撮影内容を上映しました。来場者の方々は展示物を興味深くご覧になっており、理解を深めて頂きました。

来年も多くの皆様のご来場をお待ちしております。



寒冷沿岸域チームの展示状況 (左：大型平面水槽の説明を聞く小学生 右：流水模型の組み立ては親子連れに大人気)



水産土木チームの展示状況 (左：熱心にメモをとる小学生 右：水産生物の骨格標本をもって記念撮影)



会員の表彰等について

令和 4 年度 漁港漁場関係事業優良請負者表彰について

寒地港湾空港技術研究センター

令和 4 年度漁港漁場関係事業優良請負者表彰の受賞者が、令和 4 年 5 月に水産庁から公表されました。この表彰は、漁港漁場関係事業への理解を深めるとともに、漁港漁場建設技術の向上を図り、漁港漁場関係事業の円滑な実施に資することを目的として、他の模範に足る功績を残した請負者に対して与えられるものです。

受賞企業は全国の漁港漁場整備に携わった中から、農林水産大臣表彰に 3 社、水産庁長官表彰に 10 社選定されました。当センター会員企業からは、農林水産大臣表彰に小針土建株式会社(小針武志代表取締役社長)、水産庁長官表彰に機械開発北旺株式会社(数土勉代表取締役社長)が受賞されました。5 月 12 日に水産庁中央会議室にて授賞式が行われました。



受賞式の状況(写真提供：北海道開発局水産課)
(前列右から二人目が小針社長、前列から 2 列目右から一人目が数土社長)

北海道産農水産品の輸出拡大や苫小牧港の利用拡大を目的に、苫小牧港利用促進協議会が令和元年から実施しております「苫小牧港小口混載コンテナ輸送支援事業」がこの度、日本港湾協会企画賞を受賞し、令和4年5月25日長崎県佐世保市で行われた授賞式で表彰を受けました。

この企画賞は、港湾の啓蒙、整備促進への貢献等が顕著であった個人又は団体に授与されるもので、当事業の輸出拡大の気運醸成や貨物の創貨に繋がった点が評価され受賞に至りました。

当協議会は引き続き各関係機関と連携し、北海道産農水産品の輸出拡大に努めたいと考えております。



表彰式の状況

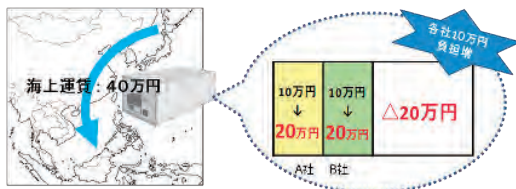
苫小牧港小口混載コンテナ輸送支援事業とは

苫小牧港利用促進協議会では、「苫小牧港小口混載コンテナ輸送支援事業」として、リーファーコンテナを活用した小口混載貨物輸送サービスを行う貨物利用運送事業者に対し、コンテナ内の空きスペースに係る輸送料金の支援を令和元年度から実施しています。

令和4年度は、ナラサキスタックス(株)(台湾向け)・苫小牧埠頭(株)(シンガポール向け)・(株)栗林商会(香港向け)のサービスが、月1回以上の頻度で定期輸送しています。

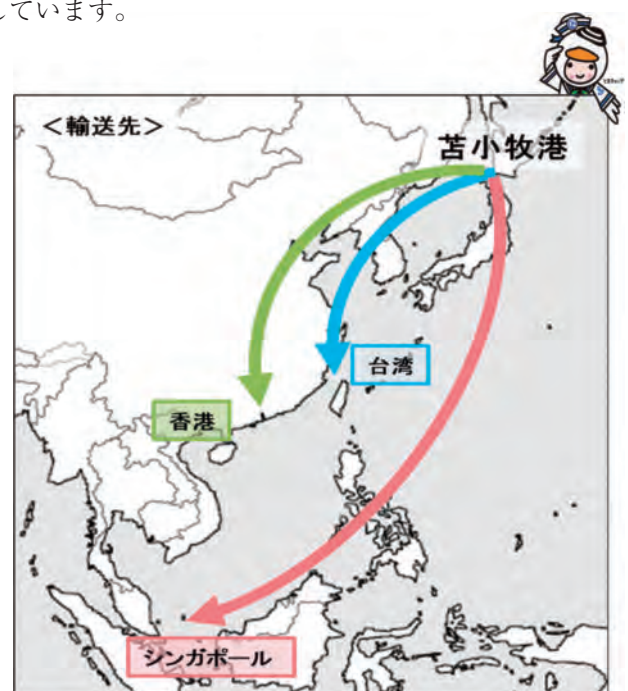
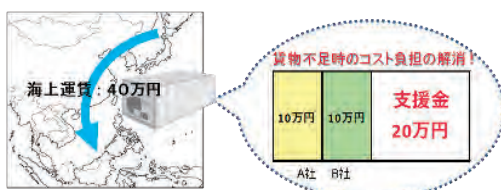
◎これまで・・・

A社、B社10万円の想定が貨物不足により20万円に・・・。



◎支援により・・・

貨物が集まらなくても、当初想定 of 価格で輸送可能に！



令和4年 春の叙勲受章者

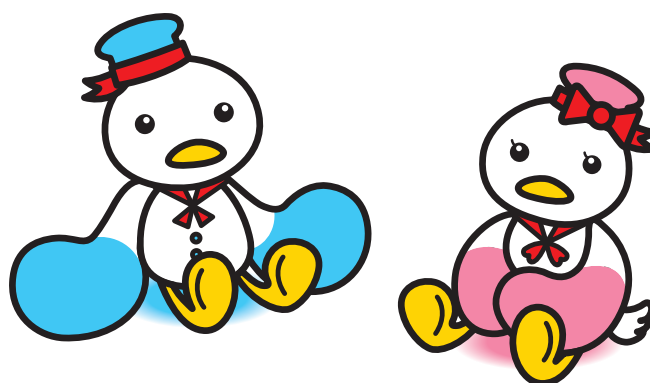
寒地港湾空港技術研究センター

令和4年春の叙勲において、岡崎光信会員(株式会社吉本組専務札幌支店長)が国土交通行政事務功勞により、瑞宝双光章を受章されました。

伝達式は例年東京で開催されますが、新型コロナウイルス感染症のため、北海道開発局から岡崎会員に勲章と勲記が授与されました。



岡崎光信会員と勲章・勲記





私事で恐縮ですが、今年、満60歳の還暦を迎えました。

60歳となる自分を想像する間もなく、やはり突然やってきました。

この還暦とは、その名の通り「元の暦に還る」の意味で「元の暦」というのは、「自分が生まれた年の干支(えと)」のこと。

つまり「還暦＝自分が生まれた年の干支に還る」を表し、赤ちゃんに戻る・第二の人生に生まれ変わるという意味です。

ところで、干支と言えば、「子・丑・寅・卯・辰・巳…」の十二支が思い浮かびますが、生まれた年に戻るといふのであれば、12年サイクル？ なぜ60年なのだろうかと調べてみました。そうすると、この十二支と合わせて暦や時間、方角などを表すのに用いられるのが、「甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸」の十干です。

この十干が10種類で十二支が12種類あるので組み合わせは120通り。そうすると120歳となるのでは？ 我が国は長寿大国とはいえ120歳までは無理！

その仕組みを解き明かすと、十干と十二支は1年ずつ変化し、この組み合わせが変わることによってその年の

干支が決定します。十干が10種類で十二支が12種類あるのでこの差が2つで、2つずつずれていくので、1つの十二支と組み合わせる十干は5種類。すなわち十干と十二支の組み合わせは60通りとなることから、60年で自分が生まれた年の干支に還るということだそうです。ちなみに、今年は十干が「壬」で十二支が「寅」なので「壬寅(みずのえとら)」となります。

一方で、日本の還暦祝いの起源は諸説あるようですが、戦前までは平均寿命は50年にも満たない中、60歳を迎えるということは大変な長寿で、還暦を祝うということは、滅多にない長寿を祝うという意味だったようです。日本は今や平均寿命が80歳を超えた長寿大国で、最近では人生100年時代とも言われ、還暦を迎えてもまだまだ元気でそして若いのです。

そんな中、毎年受診している健康診断で異変がみつかり、体力と健康には自信があった自分ですが治療を余儀なくされてしまいました。60歳という節目なのか予期せぬ異変への戸惑いとともに、第二の人生をどのように過ごしていくのか思案する日々を送っています。

また、この編集後記を考えるなかで、突然のショッキングな事件が起きました。安部元首相が銃撃によって、67歳「甲午(きのうま)」の若さで亡くなりました。ここに、哀悼の意を表すと共に、この「港のたより」を読まれている皆様方のご健勝をお祈り致します。(M.I)

表紙の写真：枝幸港



枝幸港はオホーツク海北部に位置する地方港湾で、江戸時代の貞享年間(1684～1686)に松前藩が直領の鮭漁場を開いたことに始まり、明治中期には1,400隻を超える漁船が集積していた。当時は、平磯にわずかに被覆されていた水面を港として利用していたため、海難事故が頻発していたことから、第二期北海道拓殖計画により本格的な築港工事に着手した。以来、オホーツク海を漁場とする水産拠点や背後地域への物資の輸送拠点として重要な役割を担っている。近年はホタテ、カニ、サケなどの水産拠点及び海洋レジャー基地として利用されている。また、平成29年5月に農水産物促進計画が認定され、連携水揚港として屋根付岸壁の整備が進められている。

港のたより 【Vol.139】 2022年8月18日

(一社) 寒地港湾空港技術研究センター

〒001-0011 札幌市北区北11条西2丁目2番17号 セントラル札幌北ビル5階
TEL(011)747-1688 FAX(011)747-0146 <http://www.kanchi.or.jp>

